

歴史ライヴ

徳川家康

福武書店

編集・ディレクション	植田博文・黒坂勉・宇野恵信・武隈恵里左・河田美智子
装丁・アートディレクション	浅葉克巳
カバー撮影	坂田栄一郎
カバーモデルメイク	木下ユミ
カバーモデルカツラ	水口誠也
カバーモデル衣裳	森良夫
レイアウト	山本昌美(浅葉デザイン室)・吉川俊夫・秋秀人
本文写真撮影	武田一男
本文さし絵	加藤孝雄
取材協力	豊国神社・随念寺・徳川恒孝・平凡社

歴史ライブ 徳川家康

昭和58年12月10日 初版発行

定価	1,400円
監修者	尾崎秀樹・福田紀一・光瀬 龍
発行者	福武哲彦
編集責任者	雨宮良夫
発行所	株式会社 福武書店 東京都千代田区九段南2-3-28 〒102 電話 03(230)2131 振替口座 東京9 37119番
印刷・製本	大日本印刷株式会社

© Fukutake Publishing Co., Ltd. 1983
シリーズコード ISBN4-8288-0300-9 C0321
品名コード ISBN4-8288-0305-X C0321
落丁・乱丁本はお取替え致しますので、当社までお送りください。

歴史ライブ

徳川家康

福武書店



厭離穢土

大樹寺公

登

「おんりょとど厭離穢土、ごんぐじょうど欣求浄土」

12年間、人質だった。岡崎に帰った時は19歳。大樹寺の先祖の墓前で自害を考えた。その家康を救ったのは、住職登善上人の言葉であった。穢れた国土を住みよい浄土にするのが役目。以来この八文字は、家康の戦陣に常に掲げられる。







その青春は、老後のようだった。

幼名竹千代はこの駿府の地で元服をすませ、初陣に旅立ち、今川義元の姪築山殿と結婚した。人質として、その鬱勃たる青春の大半を費した今川の屋敷の跡に、駿府城を建てて隠居している。



燃えた火は、消さねばならぬ。

22歳の家康にとって、それは大名としての器量を試される事件であったろう。上宮寺の糧米徴収に端を発して、一気に三河中にひろがった一向一揆の火の手は、一時は岡崎城をもおびやかしたという。この勝鬃寺もその拠点のひとつ。







ワンタッチ、遅かった。

本能寺の変が起きた時、家康は堺に遊んでいた。無防備で光秀の手の中にあっ
た。追討の手から逃がれるには、野盗の跋扈する伊賀の山道を越えるしかない。
41歳の険しい賭け。しかし、ようよう浜松に戻った時、天下は秀吉の手におちていた。



天下は、太陽と反対に動いた。

東西合わせて20万という大軍が、小さな関ヶ原を埋めていた。東軍の勝利が見えてきたのは、もう陽が西に傾いてからだ。天下は59歳の家康の福々しい手の上に移り、関ヶ原は累々たる屍しかばねと血の海を残して静かになった。







偉大な敵であったからこそ、偉大な友である。

天下分け目の戦を制して、家康はもはや自信満々だった。だからこそ秀吉の七回忌に際し、盛大な祭礼を企てたのだろう。豊国大明神臨時祭礼。しかしこの大祭りが秀吉の霊を呼びおこしたのか、大坂は再び蘇り始める。





ひとつの終わりは、ひとつの始まり。

家康の巧みな策略で、大坂城は既に、二の丸、三の丸を失ない、外堀も内堀も埋められていた。大坂夏の陣。勝負は最初から決まっていた。秀吉の栄華は、まる裸の本丸と共に炎上した。時に家康74歳。